昭和大学病院

クオリティインディケーター（QI）成果報告
〔救急診療科〕

指標名

7day Bounce-back admission（救急外来から帰宅後 7 日以内の予定外入院または予測されない死亡）の割合

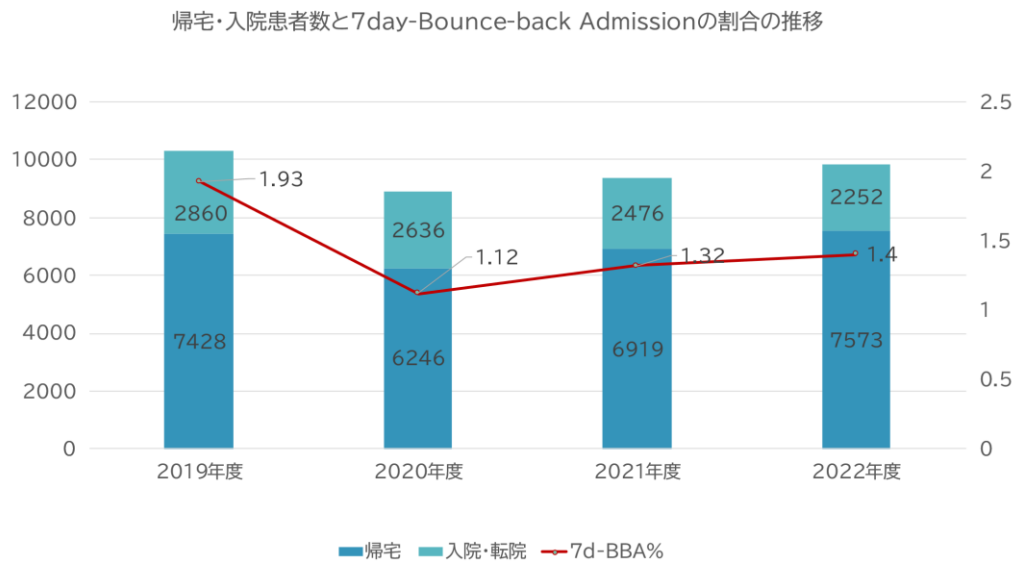
目標・ゴール

2.5%以下

目標・ゴール達成による効果

救急外来での的確な重症度判断により、患者の安全が保障される

目標・ゴールに対する成果の状況



全帰宅症例に対して、7d-BBA と認定された症例は、コロナ禍前の 2019 年度が 143/7,428 件 1.93%であり、コロナ禍以後

の 2020 年度が 80/6,246 件 1.29%、2021 年度が 91/6,919 件 1.32%、2022 年度が 106/7,573 件 1.40%であった。

目標・ゴール達成度

※該当項目に☑をつけてください

☑S　:大幅に目標を上回った
☐A⁺:目標を多少上回って達成
☐A　:目標を達成
☐B⁺:目標を少し下回った
☐B　:目標を下回った
☐C　:目標を大幅に下回った
☐ー　:外的要因により継続困難となった。

目標・ゴールの課題・改善策

本年度も、COVID-19 の流行により救急診療の需要が大きく高まったり、利用可能な病床数、診療スタッフのマンパワーが制限されたりして通常通りの診療が難しい時期があった。

また、社会生活の制限が緩和されたことで、外傷例だけでなく、疾病と外傷の併存する症例が多数来院し、医師たちは複雑な診療を強いられる場面も少なくなかった。

そのような中、7d-BBA の割合は前年度と比較してわずかに増加したが、目標値を大きく下回り、コロナ禍以前と比較しても低い割合に留めることができたことは十分評価できる。

7d-BBA は、目標を達成するだけでなく、その集計を目的として個々の症例を振り返ることそのものが、診療の質の向上に有用である。本指標の評価を継続し、診療の振り返りにつなげていきたい。